

スクラム

2月号

2月の綱領 「友情」

「本当の友だちとは何か。」ということ考えたことはありますか？あまり深く考えたことはないかも知れませんが、ちょっと立ち止まって本当の友だちとは何かを考えてみましょう。

楽しいことをいっしょにやった仲間は本当の仲間じゃない。苦しいことを

いっしょに分け合った仲間が本当の仲間だ。

～義家弘介～

人間はどんなにすばらしい能力を持っていても、自分一人ではその才能を

発揮することはできない。自分を助けてくれる仲間を持つことによってそ

の力を発揮できるのである。

～浅野八郎～

☆誰か（仲間・友）のために頑張れる人になろう☆

自分が得をするための行動ではなく、相手のための行動がとれる人は信頼されます。誰かのために行動できる人や、まわりの人の笑顔や幸せが自分の幸せと感じられる人のまわりには、自然と仲間が集まります。

☆誰か（仲間・友）の成長につながる言葉で伝えよう☆

つらい経験をしている時、成長につながるアドバイスをしてくれる人が真の友だちです。ただ見ているだけだったり、問題から目をそらさせようとしたりする人は真の友だちではありません。自分を成長させるための励ましの声かけや、自分の間違いを正してくれる厳しい声かけをしてくれる友だちが真の友だちです。

みなさんは友だちにどのような声かけをしていますか？自分が発する言葉に「思いやり」がありますか？人を傷つける「重い槍」になっていませんか？自分の行動が仲間を助ける「声かけ」になっていますか？仲間を落とす「声崖」になっていませんか？真の友だちを探すために大切なことは、自分とその友だちにとって真の友だちになることです。誰に対しても嘘をつかないことや、まわりの人に感謝を伝えられる人は、信頼できる人であり、そういう人間性を身につけることが大切だと思います。

自分と関わる全ての人に「感謝」の気持ちを伝えよう

おいしいご飯を食べることができる。洗濯された服がきれいにたたんである。三国中学校に通うことができる。友だちと笑うことができる。いろいろな経験を通して自分が成長できる。このような**当たり前の毎日に「ありがとう」と言えていますか。**

自分の身の回りのことに「ありがとう」と言えるようにするためには、「おかげさま」という言葉が大切です。自分以外のこと理由を求めるときは、「おかげさま」と「～のせい」という言葉が使われますが、この2つ言葉には大きな違いがあります。「～のせい」という言葉は、「失敗を人のせいにする」のように原因を相手に押しつける使い方をします。これに対して「おかげ」という言葉は、「君のアドバイスのおかげで元気が出た」「みんなのおかげで毎日が楽しい」というように、周りの力で状況が良くなる使い方になります。私たちは何か苦しいことがあると、その原因を他の人や自分の境遇に押しつけて「あの人のせいで、自分が苦勞しなければならぬ」「宿題が多いせいで、好きなことができない」と思うことがあります。そう考えれば考えるほど、心は暗く、重くなります。しかし、ここで「～のせい」という言葉を「～のおかげ」に置き換えると、後に続く言葉が変わるはずです。「あの人のおかげで、自分の足りなかったことに気づくことができた」「あのピンチを乗り越えたから、自分は成長することができた！」このように、どんなときでも周囲への感謝の心を忘れず、苦勞や苦難をも「おかげ（おかげさま）」という発想で受けとめていけば、自分の身の回りのことに感謝し、前向きに生きることができます。

三国中学校の伝統

もうすぐ令和3年度も終わります。新しい年度になれば、3年生は卒業し、先生の異動があり、新入生が入学します。このように三国中学校に関わる人は変わっていくのに、三国中学校の伝統はしっかりと受け継がれてきました。三国中学校生全員が「三本柱」を意識して取り組んできたことで伝統が受け継がれてきたのだと思います。

毎日元気に挨拶する姿、時間を守り生活する姿、無言清掃に真剣に取り組む姿、部活動に全力で取り組む姿など、全員で取り組んでいる**小さな積み重ね**が伝統の土台を作ってきました。毎日こつこつと積み重ねてきた**“小さなこと”**が、三国中学校の**“大きな伝統”**を作っています。たった1人や、たった1年では伝統を作ることはできません。卒業していった全ての先輩方の思いや行動の積み重ねによって、伝統は作られています。

長い間変えずに取り組んできた「三本柱」の積み重ねや、新しい取り組みを通して、三国中学校はレベルアップしてきました。これからも生徒のみなさんが「三本柱」を意識して、これまでの先輩方が築き上げた伝統を超え、三国中学校の新しい伝統をつくっていきましょう。

**日々の小さな積み重ねのひとつひとつが、
三国中学校の伝統をつくる**